

北海道で考える北東アジア国際情勢シンポジウム2025

「新局面を迎えたウクライナ戦争の北東アジアへの影響～日本を取り巻く安全保障環境を考える」

日時 2025年3月10日（月）
時間 13:30~15:30

場所 札幌ガーデンパレスホテル 2階丹頂の間

方式 会場での対面式およびオンライン
(ハイブリッド方式)

タイムテーブル

基調報告〔各20分×2〕13:30~14:10

(1) 兵頭慎治・防衛省防衛研究所 研究幹事

(2) 岩下明裕・北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 教授

ディスカッション（質疑応答）14:20~15:30（50分）

コーディネーター：高田喜博・ハイエック客員研究員

ロシア・プーチン大統領と北朝鮮金正恩総書記の「包括的戦略パートナーシップ条約」に基づく、北朝鮮軍兵士のウクライナへの戦場投入。また今年1月に再び就任したトランプ大統領の関与など、そうしたウクライナ情勢の変化が、北東アジアの安全保障環境にどのような影響を及ぼすのか？

専門家による議論を深め、最新情報の解説により大きく変化する国際情勢の中、日本をとりまく安全保障環境について、みなさんとともに考えます。

プログラム

基調報告

兵頭 慎治 氏

防衛省防衛研究所 研究幹事

「国際情勢の変化と北東アジアの安全保障環境への影響」



1968年、愛媛県生まれ。上智大学外国語学部ロシア語学科、上智大学大学院博士前期課程を修了後、1994年に防衛省研究所研究員として採用。外務省在ロシア日本国大使館専門調査員、英国王立防衛安全保障問題研究所客員研究員、内閣官房国家安全保障局顧問等を歴任。現在、青山学院大学大学院兼任講師、国際基督教大学非常勤講師、外務省研修所講師等を兼任。専門は、ロシア地域研究、国際安全保障論。

基調報告

岩下 明裕 氏

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授

「国際情勢の変化と日本を取り巻く領土問題への影響」



1962年、熊本県出身。九州大卒。山口県立大助教授を経て2003年、北大スラブ研究センター教授。改称に伴い14年から北大スラブ・ユーラシア研究センター教授。長崎大学グローバルリスク研究センター長。22年3月まで2年間はセンター長を務める。専門はロシア・独立国家共同体(CIS)外交、境界研究。

● 参加方法：右の2次元コードから参加登録、または下記メールあてに氏名・所属・連絡先を記載の上お申し込みください。【参加料：無料】定員70名

● お問い合わせ先：HIECC 情報企画部（担当：加納・高田）
☎011-221-7840 ✉hiecc@hiecc.or.jp



 主催 公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター (HIECC)
北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター